



国民の森林・国有林

中部森林管理局

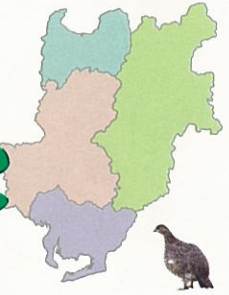
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



グリーンパトロール隊がTV取材を受ける（洞沢）



行き交う登山者に高山植物等の保護や美化を呼びかける、グリーンパトロール隊員と管理署の職員（中信署）

高山植物等の保護パトロールを実施

夏山シーズンが最盛期となった8月初旬、中部森林管理局管内の北アルプス、中央アルプス、乗鞍岳、御岳山等の高山帯をはじめ、志賀高原、美ヶ原等の高原において、高山植物等保護協議会や各森林管理署、県、市町村、山小屋関係者等の合同による高山植物等の保護パトロールが実施されました。

パトロールでは、登山者に高山植物の踏み荒らしの防止やゴミの持ち帰りを呼びかけたほか、ゴミ拾いなどの美化清掃も行いました。（関連記事4ページ）

民有林直轄治山事業

全体計画調査検討委員会を開催

〔治山課〕中部森林管理局では、民有林直轄治山事業実施要領が平成十四年に一部改正となったことを受けて、現在実施中の民有林直轄治山事業の全体計画について、整備水準や事業評価の概要、地域関係者の意向の反映等新たな項目を追加する必要が生じたことから、そのために必要な調査を現在進めているところであります。

この一環として、専門家の意見を聞きながら、見直しについての検討を進めていくため、本年七月に民有林直轄治山事業全体計画調査検討委員会を発足させ、これまでの実行状況を踏まえつつ、既施工地の検証、地区



三右衛門沢の崩壊地と施工箇所

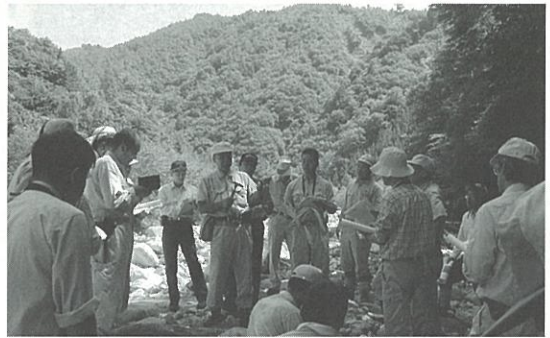
の整備目標と具体的な整備水準、地域関係者の意向の把握などについて、どのような方法で行うべきかを検討しています。

また、全体計画の策定に当たっては、地元市町村・地元自治会等、地域関係者の意向を把握することや変更に当たって、県の意見を聞くこととなっているため、必要に応じて県や地元市町村の参加を得ながら、検討を進めていくこととしています。

第二回目となった八月十二日の委員会は、検討のためのモデルとした長野県飯田市の松川入地区において、現地視察という形で執り行われました。

当日、松川ダムにおいて、当局から事務局として委託を受けている(財)林業土木コンサルタンツから、松川ダムの概要及び当日の行程について説明がなされ、その後、松川入地区内の土砂流出状況や土砂流出量を測定するために設置されている試験地、治山運搬路の実施状況、森林整備の状況等について順次視察が行われました。

参加者は、当委員会の座長を



現地視察の状況(松川本流越田沢付近)

務める信州大学名誉教授の北澤先生をはじめとした四名の委員の先生方のほか、中部森林管理局職員、伊那谷総合治山事業所職員、長野県職員、飯田市職員、事務局等を含め、総勢三十名余りとなりました。

また、現地視察の前には、長野県知事から調査検討委員会宛の意見書が長野県より委員長へ提出されるなど、委員会に対する期待が感じられる一幕も見られました。

現地視察において、各委員からは、荒廃状況の厳しさから、溪畔林の造成等を最重要視することは困難なので、崩壊地復旧のための山腹工を優先させるべ

きとか、これまでの治山事業の成果が着実に現れていることを評価すべきなどといった多くの意見が出されました。

今後、当委員会は、十二月までかけて検討を重ね、全体計画の取りまとめに一定の方向を示すこととなります。

木曾森林環境保全ふれあいセンターの取組みについて

中部森林管理局は、国有林野を活用して自然再生や生物多様性の保全等に取り組むNPOや、森林環境教育に携わる教育関係者への支援活動の強化等を図るため、平成十六年度、長野県日義村に「木曾森林環境保全ふれあいセンター」を設置しました。

来樹種による植生の再生を図る。

②対象区域 御岳国有林(約一七〇畝)

③事業概要

センターでは、主に長野県西部地震被災地(王滝村)をはじめ木曾谷の国有林を活動フィールドとして、前述したNPOやボランティア団体等と連携し、次の具体的な取組みを推進することとしています。

地震災害後二十年にわたり実施されている治山事業及びボランティア団体等による再生活動により、現在、緑の森林が戻りつつあるが、緑化樹種として植栽されたヤシヤブシ・ハンノキ等は肥料木として一定の成果を得られつつあることから、今後、現植生を生かしながら、NPO等と連携してヒノキ、サワラ、ミズナラ等の在来樹種による針広混交への誘導を図ることとする。

一 長野県西部地震復旧地における自然再生事業

①目的

長野県西部地震(昭和五十九年九月)被災跡地の災害復旧事業箇所において、現況植生調査・植生等の変遷調査を行い、NPO等と連携してヒノキ、サワラミズナラ等の在

④NPO等との連携の推進

・連絡体制等の整備
災害復旧に携わった自治体、NPO団体、ふれあいセンター等による連絡体制を整備。
・NPO等との連携の推進

NPOとの連絡会議を開催し、事業実行箇所における植生の再生、維持管理手法等について検討を行うとともに、これらのNPO等と連携して植生の再生に向けた事業を実施する。

二 木曾駒ヶ岳における植生再生事業

①目的

中央アルプス木曾駒ヶ岳森林生態系保護地域等を対象として、継続的な植生モニタリング調査の実施、植生再生手法の検討及びこれらの情報提供を行うことにより、当地域の適切な利用・NPO等との連携による植生維持管理及び植生復元を実施する。

②対象区域

- 駒ヶ岳国有林 (約一、七八〇畝)
- 黒川国有林、赤穂国有林 (約二、六〇〇畝)
- 伊奈川国有林 (約一、四六〇畝)

③事業概要

低地帯から高山帯にある原生的な森林の現況調査を行う



拠点整備が行われる城山国有林 (木曾福島町)

て、森林生態系の推移をモニタリングするとともに、森林の現況調査結果に基づき、植生の維持管理及び植生復元を行う。

④NPO等との連携の推進

・連絡体制等の整備
・有識者、自然保護団体、NPO団体、ふれあいセンター等による連絡体制を整備。
・NPO等との連携の推進
植生の推移の解析、現況調査結果を踏まえ、有識者、NPO等関係団体との検討委員会を開催し、植生の再生、維持管理手法等について検討を行うとともに関係団体と連絡

会を設置し連携して植生の再生事業を実施する。

三 城山国有林の拠点整備について

①目的

城山国有林は、ヒノキ、スギ、カラマツ等の人工林、木曾ヒノキ、サワラ等の天然林からなり、林相はバラエティに富んでおり、これらは木曾福島町市街地に隣接し、歴史的な城址や散策コースがあるものの施設等の整備が十分ではない。

このため、地域住民等の参加による森林整備活動を通じて、緑豊かな生活環境の保全と森林の利用の促進を図る。

②実施予定地

城山国有林 (約七七畝)

③事業概要

城山国有林において、ボランティア団体等と環境教育の活動拠点フィールドとして整備するとともに、地域住民の参加による森林整備活動を通じて、緑豊かな生活環境の保全と森林の利用を推進する。

④NPO等との連携の推進

・地元自治体、ボランティア団体及び近隣学校等による協議会を立ち上げ保全・整

備協定を締結する。

・協定締結、記念イベントの実施

・当該国有林の整備、利用についての計画の作成

・協議会と連携したフィールドの整備及び利用を行う。

「ずく出せ修行体験」に協力

ふれあいセンターから

木曾山林高校の二年生六名が、七月二十六日～三十日までの五日間、当センターで作業実習を行いました。これは、昨年度から長野県教育委員会が指導している県立高等学校の生徒が企業で就業体験を行う特別活動「ずく出せ修行」の一環として行ったもので、当センターでは、林道法面の草刈りと新設を計画している城山国有林の歩道測量の実習を行いました。

初日は「管理局の概要説明」と「安全指導」「刃物の研ぎ方」という内容で、二時間程度の説明後、実習に入りました。特に刃物の災害が多いことから、「作業安全」についての留意事項・安全のポイントを中心に指導をしました。また、鎌の研ぎ方に



ずくを出して下刈り作業の修行に取り組む

については、鎌は毎日使う道具であり、刃物の研ぎ方について全員に習得してもらいました。

二日目を以降のミーティングでは作業の要点、刃物の取扱いや接近作業の禁止等の安全指導、体調管理指導などを行い、現場で林道の草刈りや計画歩道のコンパス測量を行いました。

炎天下の草刈りで汗を流したり、コンパス測量では求めた成果が出ず再測量になるなど、生徒の皆さんは戸惑う場面もあつたようですが、森林の管理や仕事の厳しさについて肌で感じとっていただけたのではないかと思っています。

注：ずくとは、信州の方言で「やる気を出して、精神的に、面倒くさがらずに」の意味をさす。

「森と湖に親しむ旬間」全国行事

うなづき湖フェスティバル開催される

〔富士署〕七月二十四～二十五日の両日、林野庁及び国土交通省などが主催する「森と湖に親しむ旬間」の全国行事が富山県下新川郡宇奈月町内の国土交通省うなづきダム会場等で多彩な催しで開催され、延べ一万五千名の参加がありました。

ダムサイト特設会場で行われた記念式典には富山県知事や林野庁長官代理水源地治山対策室長など約二百名が出席しました。

式典では現地実行委員会が独自にプレイイベントとして募集したフォトコンテストの表彰が行われ、特選の内一点を中部森林管理局長賞として関局長から表彰されました。



関局長から表彰状が渡される



クマさん作りに子供たちも熱中

富山森林管理署が行ったクラフト教室にも多くの参加者がありました。今年は、太めの木の枝や大小の輪切りを利用して作る「クマさん」が大好評で子供も大人も夢中になって、取り組んでいました。制作指導に当たったのは、主に現場の森林官や事業所主任で、子供たちに熱心に教えていました。

このほか、森林に関わるメニューは富山森林管理署の担当で、黒部峡谷鉄道を利用し富山県森林インストラクターが案内する「森林探検ツアー」や、ダム湖畔を眺めることができる、トチやナラ等の林の中をナチュラリストの案内で散策するウォークラリーが行われました。

各地で高山植物等の保護活動

美ヶ原、乗鞍、白馬、涸沢で合同パトロールを実施

〔中信署〕高植協中信地区協議会では、夏山シーズンを迎えた八月一日から七日までを「高山植物等保護対策強化週間」に設定し、環境省、地方事務所、市町村、山小屋等関係者と連携を図りながら、美ヶ原、乗鞍、白馬、涸沢の各地区において、合同パトロールを実施しました。

特に強化週間最終日の涸沢地区では、関局長も参加して、すでに活動を開始しているグリーンパトロール隊員の女性二名も



ゴミの持ち帰り等をお願い（美ヶ原）

加わり、局長からの激励を受け涸沢までの約三時間の道のりを高山植物等保護やゴミの持ち帰り等を登山者に呼びかけながらパトロールを実施しました。

また、当日は中信署管内での高山植物保護の現在までの活動状況と、グリーンパトロール隊の活動を取材するために、テレビ局のスタッフも同行するなどメディアからのPRも期待できるパトロールとなりました。

今回のパトロールでは、全体的に注意指導件数やゴミ等も少なめであり、入山者のマナーが向上していることが伺えました。が、立ち入り禁止区域へ踏み込んだ形跡が見受けられた箇所もありました。今後も高山植物等の保護啓発活動を続ける必要性があることを実感しました。

乗鞍合同パトロールとCF（シティフォレスター）事業

〔飛騨署〕八月六日、高山警察署、丹生川村等をはじめ乗鞍岳に関係する団体等からの参加者二十名とともに高山植物等保護合同パトロールを実施しました。

この合同パトロールは、入山者に対し高山植物保護等を理解



シティフォレスターによる登山道整備

していただき、美化活動を進めるため毎年実施しているものです。

当日の午前中は、あいにくの霧の濃い天候でしたが大勢の入山者があるなか、当署パトロールセンターに集合した参加者は三班に分かれ、秋の訪れを告げるイワギキョウやミヤマアキノキリンソウが咲き始めた畳平周辺で高山植物保護の啓発活動や美化清掃を行いました。

また、当日は名古屋CF事業も行い、参加した十一名の隊員により、登山道の修理や美化活動を実施しました。昼頃、霧も晴れた大黒岳では、ときおりライチョウも姿を見せ参加者や入山者を喜ばせていました。

ヒメバラモミ保護管理調査事業

検討委員会を開催

「指導普及課」中部森林管理局 危惧Ⅱ類に指定されています。

では、八ヶ岳山麓と南アルプス山麓の限られた箇所ではしか生育しないヒメバラモミを保護するため、平成十六年度より保護林保全緊急対策事業に取り組んでいます。

「ヒメバラモミ」は、八ヶ岳と南アルプスのみに分布する日本固有種で、現在の生育本数は二〇〇本程度と推定され、環境省のレッドデータブックでは、絶滅危惧ⅠB類、長野県レッドデータブックにおいては、絶滅

ラモミを研究している森林総合



ヒメバラモミの生育する巫女淵特定地理等保護林

南アルプスの生育分布は、ほとん

希少種の効果的な保護を図るため、八月三日、大学教授、研究者等の有識者からなる「ヒメバラモミ保護管理調査事業検討委員会」を開催しました。

検討委員会では、(財)林業科学技術振興所の山本千秋主任研究員を委員長に選出し、ヒメバラモミを研究している森林総合

ラモミを研究している森林総合

- ① 孤立木が多いことから、生育している箇所とその現状把握
- ② 見本林、採種林の造成のため手法として接ぎ木を実施、接ぎ木苗を作るため、台木の購入と穂木採取
- ③ 八ヶ岳山系と南アルプス山系の遺伝的な違いの調査等を行うこととしています。



検討委員会であいさつする関局長



インストラクターによる高山植物等の説明

北アルプス八方尾根の高山植物を訪ねて 第二回森林倶楽部を開催

「指導普及課」森林倶楽部の第一回イベント「北アルプス八方尾根の高山植物を訪ねて」を七月二十二日、長野県白馬村の八方尾根で開催しました。

今回は、会員九十九名が参加し、管理局、中信署等のインストラクターの案内により八方池までの往復約四時間のトレッキングを十一班に分かれて実施しました。

インストラクターから「高山植物等保護管理事業」、「希少野生動物種保護管理事業」等の



八方池をバックに記念撮影

かけ流しの湯
心のこもった料理で
おもてなし

林野庁共済組合下呂保養所
あさぎり荘
電話 0576-(22)-2410

説明を受けながら可憐な高山植物が咲き乱れるコースをトレッキングしました。
残念ながら八方池からの白馬三山を見ることはできませんでしたが、名古屋市をはじめ県外から参加された方も可憐な高山植物に満足されたようです。

教職員を対象に 森林・林業の勉強会

各地で森林・林業体験学習会



伐倒したカラマツを玉切りする教職員

中部森林管理局は、学校における「総合的な学習」の本格的な実施に伴い、国有林のフィールドを教育の場として活用することを推進していくため、教職員を対象として、各地で森林・林業体験学習会を開催しました。

なお、この学習会では、森林の役割や森林を利用した教育プログラムの可能性について理解を深めていただくとともに、森林整備体験を通じて総合学習のプログラム作成の参考にしていただくこととしています。

間伐作業や葉っぱ観察 ビンゴゲーム等を体験

「指導普及課」八月四日、南信署管内巫女測特定地理等保護林

等において、昨年に引き続き小学校の教職員を対象として、中部森林管理局主催の「森林体験学習研修会」を開催しました。

当日は、上伊那地域の小学校から十二名の教職員が参加し、局署職員がインストラクターとなつて、午前中は巫女測特定地理等保護林内のキタダケトラノオ、トダイハハコ等地域特有な希少植物を始めとした植物の観察を実施し、午後は三峰川林道沿線においてカラマツ人工林の間伐、葉っぱ観察のビンゴゲーム、小木工品の製作等を体験しました。

参加した教職員からは、「森林の役割や森林を利用した体験型学習の必要性について理解が深まった」「学校周辺での野外学習

のプログラム作成の参考になった・学校教育活動のお手伝いをしてほしい」また、「素晴らしい企画をもっと早くから知っていたら多くの先生が参加できたのに残念」との声もあり、今後に繋がる有意義な一日となりました。

また、長野県林務部との共催による「教職員森林体験学習研修会」が、県内の二十五の小学校で夏休みを中心として十月まで順次開催されており、各地方事務所の要請に基づき、局署職員もスタッフとして参加し、ネイチャーゲーム、森との関わり方、小木工等が実施されることとされております。

「森林の大切さを 伝えよう」

「名古屋事務所」八月五日、六日、じょうこうじ響の森において、尾張旭市小中学校教職員を対象とした森林環境教育研修会が、十九名の参加のもと開催されました。

初日は、森林交流館職員の指導による、登り人形や竹けん玉づくり等のネイチャークラフトを体験した後、名古屋事務所及び尾張森林事務所職員から、森

の公益的機能やじょうこうじ響の森でみられる植物・空中写真の見方等について、現地実習も含め実施されました。

二日目午前中は、間伐体験を行い、林業の大変さを身をもって体験すると共に、森林づくりについて考えました。午後からは、愛知県ネイチャーゲーム協会理事長青山裕子さんの指導のもと、ネイチャーゲームの概念を学び、いくつかのゲームを実際に体験しました。

二日間を通じ非常に暑い中で研修会でしたが、参加された方々からは、「普段出来ない貴重な体験ができた」「実際に学校で取り組めるものも多くあ



ネイチャーゲームでは木に触れてみる

人のういき

中部森林管理局人事

八月一日付

▽林野庁業務課土地利用計画係長（局国有林野管理課土地利用活用室計画処分係長）
松原 真一

▽局国有林野管理課土地利用活用室計画処分係長（局治山課調査係長）
郷原 辰実

▽局治山課調査係長（局治山課付）
稲垣 明敏

▽富山森林管理署治山課付（富山署治山課長）
野原 正張

▽富山森林管理署治山課長（局治山課技術指導官（治山担当名古屋事務所）
川田 温

緑の募金で
CO₂ダイエット!
緑の募金法制定10周年

各地のたより

遊々の森で

下草刈りを体験

〔中信署〕七月十四日、松本市の御殿山国有林遊々の森「わんぱくみんなのひみつきち」において、本郷小学校六年生児童七十二名と本郷地区の住民の皆様による下草刈りを行いました。



炎天下の中、汗を掻きがんばる児童ら

もらうのが目的です。

児童たちは、五、六人の班に分かれ、一畝以上に覆い茂ったアカシアやタラの木、雑草等を手鎌で刈りました。下草刈りは初めての体験者が多く、最初は恐る恐る行っていました。徐々に慣れていく姿が伺えました。

当日は、三十五度を超える猛暑となりましたが、児童たちは、「作業は暑くて大変だけど、木が植えたときよりも大きくなっていてうれしい」「このまま木がずっと大きく生長していくといい」などと、炎天下の中、汗だくになりながら作業を行っていました。

大阿原湿原で

高校生が歩道整備

〔南信署〕七月二十八日、上伊那農業高校緑地工学科二年生三十九人が、長谷村黒河内国有林内、大阿原湿原の遊歩道整備を行いました。

大阿原湿原は、入笠山の南、小黒川の源流に位置する約一二畝の湿原で、高層湿原としては国内で最南端ともいわれ、食虫植物のモウセンゴケなどが生育している貴重な湿原です。



遊歩道の整備に取れ組む生徒たち

当署では、伊那営林署時代の昭和四十八年から、利用と保護を両立させるため、遊歩道の整備や保護柵を設置したほか、平成十一年には、乾燥化防止、踏み込み防止などの措置を行います。湿原植生の経過観察を行っていきます。

今回、学校教育のなかで、施設整備への参加を通して自然を守る大切さを理解していただくとうと当署が呼びかけたもので、周囲約二キロの遊歩道のうち板歩道の張り替えや板歩道の新設など約一〇〇畝を整備しました。生徒らは、三寸釘を板に打ち付けるなど慣れない作業でしたが、一生懸命に取り組み、「自然の中で、自然を守る実習ができていい経験になった」と感想を話してくれました。

会議行事等予定

貴田 雅規(岐阜署)

▽森林・林業技術研修(流域管理システムI研修)
9月6日～9月10日
飯村 清夫(計画課)

◎国有林野管理審議会
8月26日
管理局

▽森林・林業技術研修(森林総合利用)
8月30日～9月10日
林 直樹(国管課)

◎森林施業現地研修会
9月2日～3日
飛騨署管内

▽森林・林業技術研修 森林土木適正施工(治山)
9月13日～9月17日
宮地 源治(愛知所)
山田 正孝(南信署)

◎エコフェスティバルinエムウエーブ
9月5日
長野市エムウエーブ

◎森林官会議
9月7日～8日
管理局

▽業務研修 測定研修
8月24日～9月1日
局等
局等の経営係長、森林官等

研修予定

中央研修(森林技術総合研修所)
▽業務研修 森林資源調査
8月23日～8月27日
松井 栄(計画課)
百瀬 健(計画課)

▽養成研修 森林官養成科I
9月2日～10月7日
平成十三年度採用職員
〔関東局管内職員及び係員研修未受講者含む〕

▽業務研修 森林技術
8月23日～9月10日
入交 信太(東信署)

▽業務研修 森林環境教育等実践研修
9月6日～9月10日
各署等のふれあい係長、森林官等

▽森林・林業技術研修 治山(初級) ii 研修
8月30日～9月10日
松井 健太郎(伊那谷)

〔森林官養成科I受講者も受講〕

ヒノキ皮チップで 歩道を作設

「木曽署」上松中学校三年生による体験林業が七月八日、赤沢自然休養林で行われました。

当日は好天に恵まれ、観光客の多くいる中で、昭和六十年伊勢神宮御神木伐採跡までの歩道のうち八〇％にヒノキ皮チップの敷き詰め作業を行いました。

この体験では「山林を愛し、上松町の美しい自然環境を大切にしていく郷土愛を育てる」ことを目的として、例年、町有林にて保育作業をしてきています。休養林の歩道はヒノキの根が露出している箇所が多く見受けられ、歩行に支障をきたしてお



ヒノキ皮チップの柔らかさを体験

り平成十二年に森林技術第一セクターで行ったチップ舗装が好評であったことから、昨年御神木跡地までのチップ舗装に着手し、その延長の作業を今回行ったものです。

中学生の中には、赤沢自然休養林に初めくる子もいて、自然を満喫しながらチップ舗装の感触を足で確かめ、作業を進めていました。

職員が木馬引きで奮闘！

「木曽署」七月三十一日、上松町で行われた「ひのきの里の夏まつり」のメインイベントである「木馬引き大会」に木曽森林管理署からも若手を中心とした精鋭？五人でチームを編成し参加しました。

今年第十五回目の記念大会でもあり、例年木馬に積む木曽ヒノキの重量三〇〇キのところ、なんと約四三〇キにもなりました。

自主トレーニングの成果と五人の気合いそして多くの歓声のなか六番目に出走、一五〇キを無我夢中で木馬を引っ張り続けました。最終コーナー付近では失速の危機も乗り越えて、四二



がんばれ！ あともう少しだ！

秒〇六のラップタイム、終盤に抜かれたものの見事三位入賞を果たしました。ゴール直後は筋肉痛と軽度の酸欠状態に陥った選手もいましたが、思わぬ好成績に選手一同大満足でした。

夏まつりでは、来年の二十一年に一度行われる御神木祭を控え、木遣り音頭にあわせ御神木レプリカの御木曳きが行われたほか、木工市では、署から出品した赤芯「あかし」が木曽谷のお盆にかかせないもの（迎火用）と多くの人が買い求めていました。

日本一かがり火まつり

「飛騨署」八月七日、飛騨署は高根村日和田高原で開催されたかがり火まつりに森の働きパネ

ル展示や木工教室で参加しました。

木工教室は、木の輪切のネームホルダー作りや木の実や木の枝を使っての森林クラフトを行いました。親子で一緒に作品を作るほほえましい姿や、自由な発想で作った作品の出来ばえに満足し、大切に持って帰る子供の姿もありました。

当日は曇り空の下、午後からは時々、雨が降り当署のテントも一時避難所となる場面もあり



なにが出来たのか楽しみだね

ましたが、終日子供たちで賑わいました。

～ 木の文化を支える森づくり ～ 裏木曽古事の森の集い

〔東濃署〕裏木曽の山々は古くから良質な木曽檜が産出され、我が国を代表する木造建築物である姫路城、江戸城、伊勢神宮をはじめとする歴史的建造物に多数使われており、今後においてもこのような日本の貴重な木造建築物の修理用材を供給していくことが必要となっています。そのため、当地域を「裏木曽古事の森」と名付け大径木の森づくりに取り組み、木の文化を未来に継承していくこととして、「裏木曽古事の森の集い」を以下のとおり講演会や記念植樹を行います。

- 期日 平成16年10月8日(金)
- 第1部 記念式典・講演会
 時間 10:00～11:45
 講師 立松 和平氏(作家)
 場所 明治座(岐阜県恵那郡加子母村)
- 第2部 記念植樹
 時間 12:30～15:30
 場所 加子母村裏木曽国有林77い林小班

主催 裏木曽古事の森育成協議会・中部森林管理局
後援 加子母村・付知町